

平成 31 年の仕事始め式に当たりご挨拶を申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

皆さん方にはそれぞれに新春の幕開けを新たな決意をもってお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

また、大久保堅太議長並びに山田能新副議長におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませずご臨席をいただき誠に有り難うございます。

どうか本年も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年は亥の年であります。

猪という動物から連想されることは、今や本市にとっても有害鳥獣の代表として迷惑な生き物とされ、現在あらゆる防護対策などが講じられていますが、干支の縁起話によると「猪の肉は万病を防ぐと言われ、無病息災の象徴」とされ、その意味するところは「勇気と冒険」と表現されているようです。

また猪突猛進という言葉に表されるように、真っ直ぐに進むその勢いは、私たちにとって迷うことなく信念を持って業務に励む姿勢が想起されますし、沢山のウリ坊を随えて野や山に生息する姿には生命力の強さも共感できますので、その良いところは大いに取りいれて、今年の事業推進の原動力に還元してまいりたいと思います。

さて本年は、5月に新天皇が即位され、新しい年号が付され時代の大きな節目を迎えることとなります。

振り返りますと「平成の時代」は、東西冷戦の終結やバブル経済の崩壊に始まり、グローバル化というボーダレス社会の中で、ICTなどの情報技術の目覚ましい革新や、モノやお金の流れが劇的に変化しつつ、私たちの生活様式や考え方も様変わりした 30 年だったと思います。当然のことながら「平成の大合併」という言葉通り、自治体行政のあり方も大きく変化し、地方分権の名のもとに進められる厳しい改革は国への財源依存を断ち切られるという厳しい流れが押し寄せてきました。

私たちは、こうした時代の荒波にもまれながら、自ら行革マインドを抱き痛みすら伴う改革を実践し、一致団結して数々の難局を乗り越えています。まだまだ道半ばでもあります。

しかしその一方で、着実に市内各地域におけるあらゆる分野の平戸の魅力は着実に高まっています。平戸産の美味しい農林水産物をお取り引きくださる事業者の皆さんの評価は依然

高く、首都圏におけるアンテナショップなどの業績も好調ですし、観光部門においても宿泊客や日帰り訪問客いずれも増加傾向にあります。これに加えて、仕事納めの挨拶でも申し上げましたが、市内 12 箇所のまちづくり運営協議会の発足による地域力の底上げは、自立した持続可能なまちづくりの実現のみならず、多くの U I ターン者の受け入れ母体となっていて、昨年末までに 110 名を超える移住者数の増加を達成しています。

こうした流れをしっかりと増幅しながら、私は今年から始まる新しい時代に向け、市町村合併から 14 年目となる平戸市は、「更なる一体感」を醸成しつつ積極果敢な施策展開のスタートを切りたいと思います。

「更なる一体感」とは文字通り、これまで継続して取り組んできた様々な分野での成果をそれぞれの立場の方々と共有し、更なる付加価値を高め相乗効果に結びつけていこうとするものです。過去に囚われがちな小さな枠組みは、次の世代につながる躍進力にとって重い荷物となりがちです。足元の地域エゴよりもこだわるのではなく、広い視野で「オール平戸」の総合力を結集し、世界に通用する魅力の発信に全力を注いでまいりましょう。

一方、ハード面においても、本年は懸案であったフェリー大島の新船建造や市道山中紐差線の新安満大橋開通など、集落間の移動時間短縮も解消されます。これに続いて、県が事業主体である主要地方道平戸田平線の春日トンネルや向月工区内のトンネルもすでに具体的な進展が見えています。

西九州自動車道松浦インターも昨年末に開通し、いよいよ平戸は福岡市中心部から二時間以内の地方都市となり、緊密な都市間連携と経済活性化に大きな期待が寄せられることとなります。

そして、こうした流れを踏まえながら、長崎・佐賀両県北部の自治体が佐世保市を中心に連携して事業に取り組む「西九州させぼ広域都市圏連携協約」の締結式が来週予定されています。これは、中核市となった佐世保市を中心に、県境をまたぎ圏域全体の生活関連機能サービスの向上を図ることにより、人口減少や少子高齢社会にあっても、地域経済の活性化と利便性の向上に取り組み、住民が安心して快適に暮らしを営むことができる圏域を形成することを目的としています。

すでに住民目線で捉えれば佐世保市との結びつきは、私たち平戸市を含め各自治体相互に緊密になっており、お互いに違った得意分野や特性を活かしたまちづくりで連携をしてきましたが、より一層その相関関係を強固なものにし、いわゆる「人口流出を防ぐダム機能」と

してのまとまりを形成していかなければなりません。

いま述べたことをまとめますと、あらゆる組織や集合体が成長していくための進化の過程は「一体感の醸成」と「伸びやかな連携」の反復とステップアップにあると私は考えます。

例えば、その家族がしっかりとした絆でまとまっているから、生活する地域社会にしっかりと溶け込み、隣近所と信頼関係をもとに親しいお付き合いができます。その相似関係が徐々に広がることを踏まえれば、市内各地のまちづくり運営協議会が組織内の一体感を増すごとに、他地区のまちづくり運営協議会との健全な競争と共生が始まります。さらにそのことで平戸市全体の一体感が強固なものになれば、行政の垣根を越えた産学官連携はもとより佐世保市など近隣の都市間、また距離を超えて国内や世界の都市間連携も可能となります。そうした相互信頼のネットワークの広がりこそが地域の発展を高めていく計り知れない推進力となると確信します。

今年平戸市第二次総合計画「平戸市未来創造羅針盤」の2年目を迎えますが、まさに同計画に掲げたプロジェクトの推進には市民総意の熱意と覚悟の結集が土台として存在しなければなりません。

有害鳥獣の代表ともいえる猪をまちづくりのモデルにするのは本意ではありませんが、その生命力の逞しさに加え、家族一体となって野や山など場所を選ばず移動を繰り返し人間社会を脅かすほどの凄まじい勢いと逞しい生き様だけは大いに見習いながら、新しい年号のもとに始まる新年を平戸市の更なる発展のために、職員一丸となって勇猛果敢に躍進してまいりましょう。

結びになりますが、本年が市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、併せて職員各位の更なるご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。

平成31年1月4日

平戸市長 黒田 成彦